学校番号	３０４

令和８年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	『倫理』（数研出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「倫理」は、現代社会に生きる私たちが正解のない諸課題に直面し、そのより良い解決方法を模索する際の基本的視点となる人間存在のとらえ方、課題への向き合い方を、古今東西の先人の思想的営為を踏まえて考える科目です。過去の思想家や多様な思想を、単なる暗記項目や事実の羅列ではなく、自分自身を含めた人間の在り方や生き方の源泉としてとらえ、それらをもとに現代の諸課題を多面的に考える力を養うことを目指します。貧困や格差問題、環境問題、生命倫理といった幅広い問題について、ぜひ普段から高い関心と興味を持って探求してほしいと思います。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手がかりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
自立した人間として他者とともによりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追及したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い施策を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	選択・判断の手がかりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実をもとに概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	様々な人間の心のあり方、さまざまな人生観	○人間の心理的機能の特徴や発達段階、またそれらが人の適応にとってどのような役割を果たすのかについて理解する。	a 知覚，記憶，推論，問題解決といった人間の知的活動にはどのような特徴があるのか理解できている。 b　人間の心の発達が他者との相互作用に中で育っていくことについて考えることができている。また大人になることの意味について考えようとしている。 c　性格はどう形成されるのか，自分と他の人の性格の違いはどうしておこるのか関心を持ち，調べようとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録、発表	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 主体性レポートの内容
		○古代ギリシア思想やキリスト教に見られる人間観や成立背景、その歴史的意義について理解する。 ○イスラム教、古代インドの思想と仏教、中国の思想などに見られる人間観や成立背景、その歴史的意義について理解する。	a　古代ギリシアの思想家が求めた善・美の事柄，国家のあり方，人間観、世界の諸宗教の思想などについて理解できている。 b宗教が人間に対して持つ意味について考察するとともに，自分なりの意見を表明できている。 c哲学とは何を探求する学問なのか、世界の諸宗教は人間存在をどのようにとらえたかについて関心と興味を持ち，調べようとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録、発表	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 主体性レポートの内容

2学期	様々な倫理観・世界観	○デカルト、カント、ヘーゲルなど、ルネサンス以降の西洋の主たる思想家の主張の基本的内容を理解し、その歴史的意義を現代の諸課題と結び付けてとらえる ○ニーチェ、フロイト、ロールズなど、現代思想の源流となった思想家の主張の基本的内容を理解し、その歴史的意義を現代の諸課題と結び付けてとらえ、課題への解決方法を主体的に考える	a デカルト・ベーコンやその後の経験論・合理論の立場に立つ思想家の主張について理解できている。ホッブズ・ロックなどの社会契約説において，どのように国家の権力が生まれ，その権力はどうあるべきと考えたかについて理解できている。 b 近代西洋の思想家が自然と人間の関係をどうとらえ，世界はどのように理解できると考えたのか考察できている。 c 現代思想家の思想をもとに現代の科学・技術と人間生活との関わりに興味を持ち，科学的思考の特徴について明らかにしようとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録、発表	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 主体性レポートの内容
	国際社会に生きる日本人としての自覚	○日本の風土と古代日本人の考え方、仏教や儒教の受容と展開について、基本的な特徴や思想内容を理解する ○明治以降の西洋近代思想をどのように受容し、発展させたかを理解し、現代の日本社会化が抱える課題について主体的に考える。	a　日本の気候・地形・植生などの風土が日本人の意識や心情の底流となっていること、仏教や儒教など外来思想の受容の過程や特徴を理解できている。 b 日本固有の思想と儒教的なもの，また江戸時代に培われた思想や明治以降の西洋思想の受容が、現代の日本人の精神に与えた影響について考えることができている。グローバリゼーションの進む現代の国際社会の中で，今後の日本がどのような役割を果たしているのかを考え，意見を交わすことができている。 c 欧米化された現代日本社会の現状を振り返り，明治以降の日本の歩みに関心を持ち，どのように日本の近代社会が形成されてきたのか，そこにどのような問題があったのか考えようとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録、発表	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 主体性レポートの内容

3学期	文化と宗教をめぐる諸課題	○グローバル化が進む現代において、異なる文化や宗教的背景をもつ他者と共存するために必要な人間観や生き方、他者のとらえ方などを、多面的主体的に考える	a グローバリゼーションが進む現代社会で，異なる文化や宗教を持つ人々を理解し，共生に努力する必要があることが理解できている。多文化主義や文化相対主義の意味を理解し，同化主義や自民族中心主義を克服するということについて理解できている。 b 異なる文化や宗教との接触が深刻な紛争を生じさせる一方で新たな文化的創造につながることを理解した上で，そこでの倫理的課題や共存のための方法について探求しようとしている。 c 多様化する社会の中で，他者と共存していくためにどのような社会が必要か，どのような価値観が必要なのか考えようとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録、発表	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 主体性レポートの内容

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度